

第4回新城市福祉従事者支援施策推進会議会議録

日 時 令和4年8月18日(木) 午後6時～午後8時30分

場 所 災害対策本部室3

(座長、あいさつ)

改めましてこんばんは。暑い日が続き、お疲れ様ですとしか言うことはないんですが、今日が8月18日で、12月18日までに正味4ヶ月しかないんだっていうところなので、内容については、皆さんの意見をたくさんいただいて、決めることをどんどん決めて前に進んでいくようにしたいなと思います。

実は昨日のコロナの陽性感染者の人数を聞いて、新城で3桁というのがすごいショックで、だから会議はやるんですかって思わず聞こうかしらとかって思ってたんです。だから実際にこのフェスを準備はしておりますが、この先どんなことになるか、どこでどんな判断をするかっていうことを迫られることもあるかなと思いますが、この条例を作る時に思った、ケアの現場で働いている或いはボランティアとして頑張っている人たちのために私たちがみんなのできることをやっていきたいと思いますというので条例を作ったので、その一番根っこのところ、一番大事なところは忘れずにやっていきたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

(1) 実行委員会チームの状況報告

①魅力発信チーム

7月26日に第三回目の実行委員会を開きました。展示室で展示する写真展とか、あと何を伝えたいかというところを相談をしました。今回は第1回目の福祉フェスなので、市民に条例の意味をきちっと伝えたいということ、まずは、条例の目的や策定までの経緯とか、アンケートの結果とか条例の内容などをわかりやすく説明したパネルも作成して、新城は人を助けようとする人達を地域で応援するということを市民にアピールをする。市民が自然と福祉に関わる人達を応援したくなり、共感してもらえような展示にしたいということで、こちらの条例の関係のパネルと、あとプラスして、写真展は私たちの身近にある福祉だとか、福祉サービス、福祉従事者にまつわる写真を公募して出してもらおうということで、一般公募と、あと、事業所の方々にも応募してもらえるといいという話がありました。

あと、有教館高校のボランティア部へのお願いについてなんですが、当日、会場のボランティアの手伝いと、あと写真部の人には、当日のドキュメント写真を撮ってもらおうといいという話がありました。あと、福祉フェアなのかフェスなのかっていうところで、フェアは展示、フェスはイベントの意味合いが強いです。魅力発信チームとしては福祉フェスという名称で進めていきたいということになりました。

あと、事業所の紹介については、事業所が出してるチラシやパンフを置くなどして簡略化して紹介ができるようにということで、まだ日程の調整はしてませんが、今回の推進会議の結果をもって、実行委員会をまた開いていきたいと思っています。以上です。

②連携推進チーム

連携推進チームの方では、前回の新城市福祉従事者支援施策推進会議以降、実行委員会を行っていませんが、前回話が出ましたが長久手市の國信先生をお呼びして、まずは推進会議と各実行委員会のメン

バーで、事前の勉強会を行いたいということで、現在、國信先生のご都合を聞きながら日時の調整をしております。決定後、実行委員会開催の調整をしていきます。また、日時の方が決定次第、皆様にもお伝えしたいと思いますので、その際にはぜひご参加いただきたいと思います。以上です。

③事業所支援チーム

前回の推進会議以降、8月2日と8月16日に、2回実行委員会を開催しました。実行委員会の中で、今日配布させていただきました実施要綱の案、募集要綱の案と推薦書について、実行委員会の方で内容を詰めて、まだこれから実行委員会の方で話し合いが必要な点もあるんですが、現時点で考えている要綱を今日お示しさせていただきました。前回の推進会議の中で、表彰者の人物紹介、スピーチなどがつくるとよいという意見がありました。実行委員会の中で、15名の表彰者が決まってから、事業所に改めてPRコメントと写真をもらい、プロジェクターで映しながら、コメントを読み上げる形はどうかという意見と、また表彰については、時間が40分ほどなので、代表が受ける形でよいのではないかとという意見がございました。それと司会の方が表彰者にインタビューする形にすればよいのではないかとという意見がありました。実際の被表彰者の人物紹介についてはまた、今後もう少し詰める必要があるかなって思います。実施要綱の案を見ていただいて、表彰の名称について、前回、キラリ新城福祉賞のような統一したものではなくて、〇〇賞と名称付きで事業所から推薦をもらえばどうかという意見ありましたが、実行委員会の方では統一した名称にしていきたいということで、実行委員会の中では、キラリ新城、ちょっと右上に小さな星を付けて、福祉賞としたいという形でまとまっております。また、表彰対象に団体やボランティアを含めてもらいたいというご意見がございましたが、実行委員会では、まず今回は団体やボランティア含めない形でやっていきたい、対象を絞っていきたいということで、今回はそのような形でやらせていただいて、次年度以降はボランティアや団体なども今後考えていけるのかな、と実行委員会としてはそういった形になっております。

あと、実施要綱案の表彰対象者のところですが、市内の施設及び事業所で現在勤務しており、福祉職としての従事年数が当該年度4月1日現在で、5年以上のものとさせていただきます。ただし管理者の立場にあるものを除くとしていることと、あと2号のところ、職場でキラリと輝いているものということで、例として、アからエのようなことを掲げてあります。

第3条のところ被表彰候補者の推薦等については、1名というように限定するのではなくて、1名程度ということとさせていただきます。

あと、第4条のところ表彰者をどのように決めていくかっていうことで、実行委員会の案としましては、選考委員会ということで、推進会議の会長様が福祉賞の被表彰者を選考するために、選考委員会を設置して、選考委員会については、推進会議の委員の中から6名以内の選考委員で構成し、選考委員長は会長が充てるということと、あと、委員は会長が指名するというような形を取らせていただいておりますが、その点についても、今回の推進会議の中でご意見をいただければありがたいと思います。

あと、いろんな資料がつけてございますが、推薦書の様式だとかも、いろんなことを決めてからでないといけいないので、様式や応募方法などについても、募集要項の案のところ記載がしてありまして、募集期間についても、仮で9月12日から10月7日までっていうことなんですけども、これも現在のところ予定としてこのぐらいの期間を想定しているということでご理解いただきたいと思います。説明は以上です。

(委員) 事業所支援チームの説明の中で、ボランティアとか団体は今回除外するっていうことなんですけど、ここで言う団体とはどのようなイメージのものか。ボランティア団体のことか。

(事務局) 個人ではなく、グループのイメージ。

(委員) ボランティアのグループ、例えば、NPO法人みたいな法人格持ってる団体も含めたボランティア団体のことで、あくまでボランティア個人及びボランティアグループで、そのボランティアのくくりは今回対象にしないという意味での団体と置いていいか。

(事務局) しっかりとした議論は実行委員会ではできてないんですけども、イメージとしては、そんな感じですよ。

(委員) キラリ新城福祉賞の選考委員会が決定するということだが、推薦団体の方が委員になる可能性が高いんじゃないかと思う。そういった場合の投票についての取り決めを検討したか。

(事務局) 選考委員会について具体的にしっかり決めてない部分がある。また実行委員会で決めていきたいと思うが、推進会議で出た意見をいただき、また実行委員会の中で話し合いをしていきたいと思っている。

(委員) 有識者を含めた第三者委員会みたいなところで決めるというやり方もある。何も知らなければ選考できないかもしれないが、逆に知りすぎると公平に選考できないというのもあるので難しいだろうと思う。

(委員) キラリ新城福祉賞実施要綱案の第3条、対象者は雇用契約を結んで働いている人ということで、管理者を除く認識でいいか、また、福祉職というのは、広い意味でとらえていいか。福祉の施設というと、介護職の方がいたり調理員さんがいたりとか、いろんな職種があると思うが、広義の意味での福祉職ってことでよろしいか。

(事務局) 最初の質問については、雇用契約を結んで働いている人、福祉職については、広いイメージでとらえている。

(委員) 現在で5年以上っていうのは、1事業所で5年以上ということでもいいか。

(事務局) 推薦書の職員経歴っていうところに同一法人の場合は、通算して記載してくださいとしている。基本は1法人で5年以上。

(委員) 5つの会社で1年ずつ働いてた人は対象にならないということで認識した。

(委員) キラリ新城福祉賞、キラリ新城で切るのか、キラリで切るのか。星の位置がキラリの後についての方がいいと思う。

(事務局) キラリ新城で切る。

(委員) こういった決定は推進会議ですか、推進会議で意見を聞いて最終決定は実行委員会ですか。

(事務局) できれば、実行委員会の気持ちを尊重したいと思うので、今回は実行委員会に戻させてもらっていいか。

(委員) 実行委員会でネーミングに関して同じ意見がたくさん出て、そのなかでかなり議論して決めた。実行委員会では決まったことなので、これを持って帰るとまた同じ話に戻ってしまう。

(座長) 選考委員会をちょっと違った形がいいかなと思う。選考委員会の内容はもうちょっと相談していただいてもいいのかなと思う。

(事務局) 今度実行委員会で話をするのに、例えばこういう選考委員会といった意見をいただくと、話が進みやすい。

(座長) 例えば推進会議のメンバーの中で、実際にその事業所の仕事に携わってる人たちがいて、自分が選考委員になってしまって、自分の事業所から誰か出てるとなると難しいのか、それとも大丈夫なのか。

(委員) 選考された結果を見て、この選考委員だとこの人選ばれるよね、とは言われないようにしてあげないと選ばれた人に申し訳ないという思いがある。職場を離れた見地から審査するとか、言葉として要綱の中でフォローするといった形をとるしかないかなと思う。

(委員) 推薦書を見て、一番選考対象になるのが推薦理由。そこをいかに事業所が書いてくるかで決まってしまう気がする。選考する人が、その人を見てるわけでもない。

(委員) 委員自身が役員を務めるところの推薦者については投票しない。その採択から外れるといったことを要綱に入れておくと公平性が担保できる。うちの職員だから私は外れるので、私以外の人で決めてくださいってこともありだと思ふ。

(委員) 推薦書を読んで素敵だとは思いますが、優劣をつけれるのか。

(委員) 文才にも関わってくると思う。

(委員) 愛知県の社会福祉大会など推薦の段階で、たくさん来たからこの人はまた来年にしてくれという、そういう推薦をさせない根回しみたいなことがあるのか。

(委員) 私たちのボランティア団体の中でも推薦会を開いて、年数とかどうしているかとか、そういうふるいをかけてから出している。

(委員) 推薦するとなったら、本人にあなたを推薦したいと思ますっていうのは当然伝える。今回落ちましたというのと言わなきゃいけないと思う。

(委員) 落ちましたっていう根拠が必要。

(委員) 委員をやっていると5の倍数で表彰してくれる。10年選手とか20年選手になると、その表彰状がすごく価値あるものになって、すごく欲しいのであと1年がんばる、と変わってくる。そうすると選考でなくてそれだけ長年にわたってそれに貢献したということで、別に万人がもらってもいいんじゃないかと思う。

(委員) 医療、介護職とか保育さんとかある程度バランスは考えないと、保育所は全然いなかったとか、そういうことにはならないようにしてあげないといけないと思う。

(事務局) 実行委員会の中で出たのは、事業所数も介護と児童と福祉の分野があって数が違うので、割合によってバランスのいい形にした方がいいんじゃないかという意見があった。

(委員) 実行委員会の中では一応この案でまとまっているのか。

(事務局) まだ選考委員会の中身についてどういうふうにといいところまではちょっと話ができなない。

(座長) 今出た意見を、もう1回実行委員会へ返していいのか。

(事務局) 実行委員会の中で、選考委員会でどのように選考するっていう案を次の会議に出していきたい。

(座長) 早くしないと募集期間が短くなってしまう。

(委員) この推薦書の様式のところに推薦者のことと、その事業所の特徴などが書かれているといい。

(委員) 國信先生は現在どんな感じか。

(委員) 10月29日、夜で動いている。昼間は社協のひきこもりの講演がある。

(委員) 若者議会の応募がたくさんある。自己PRの文章を見て、その人の良さを記録して、それで順位づけして、その中で自分としてはこの人たちが推薦したいと出していくが、選考する委員が選考基準という確かなものを持っていて、基本的にこの項目でこういうふうな人を選考しましょうというような基本ラインは、最初に決めておいた方がいいんじゃないかと思う。

(委員) 予算上で計算すると、15名という計算になるのだけれども、円卓会議では50人ぐらいだった。15人をどうやって絞るかが根底にある。今回フェスとしてやるので、全体の予算から表彰の方にまわしてもらって、人数をもう少し増やすとかできないか。

(事務局) 何人ならいいか。一番初めの算定は50人で予算計上されており、その予算から記念品代を割り返すと15人ぐらいがマックスになった。

(事務局) 推薦がかなり出てくるんじゃないかと想定すると15人だと選考する側がすごく厳しいと思う。

(委員) 実行委員会の中では、賞状だけではなく事業所のクッキーとかの詰め合わせプラス現金的なものという形で落ち着いている。

(座長) 現金的なものを欲しい気持ちは分かるが、1500人のアンケートに答えていくと思うと15人は少ない気がする。

(事務局) 表彰はひとりずつ、どんな人なのか紹介しながらもらうことを想定していた。50人だと時間がかかる。

(委員) パネルで展示するとか、冊子に記載するとかやり方はいろいろある。

(委員) 選考委員が軽く15人ぐらいに絞ってくれるんじゃないのっていう感じだったならば、もう1回実行委員会に戻して考えて欲しい。選考委員に任せると言った重みとか内容を聞かせてもらえると、判断できるのかなと思う。

(事務局) まだ選考委員会のところの部分については、実行委員会の中でしっかり話ができていない。

(委員) 15人だった場合には、それぞれどういう活躍をされてるかっていうような紹介がありますよね。

(事務局) 最初にパワーポイントで人物紹介を流して、代表の方が表彰を受ける。そのあとに司会の方に表彰された15名にインタビューをしていただく。

(委員) 50人になっても全員やらなくてもいい。こんな変わった活動でこの人が選ばれたという何人かを抜粋して、その人たちの紹介をすればいい。最初に50人となっていたなら、予算を工面して50人で進めて行って欲しい。

(委員) スライドショーで紹介すればいい。あえて文書や声でやる必要はない。

(委員) 今いる若い従事者の人にもっと元気が出るような形を考えると、永年勤続じゃなくて勤続5年以上の若いメンバーを表彰するような制度がいいと思う。毎年50人ずつやっていけるか考える必要がある。そういうことも踏まえて推進会議で方向性を出していただければと思う。

(委員) 事業所の特徴は、推薦理由欄に書けばいい。推薦書を書くのは手間。コロナでスタッフがいない

状況の中で推薦書を書くか疑問。

(委員) 選考基準に絶対的評価はありえない。

(事務局) いただいた意見を持ち帰って検討する。

(委員) 人数による尺の問題はなんとでもなる。代表がもらうとか、紹介は冊子でやるとか、やり方は工夫次第でできる。

(事務局) 今日、プログラムを用意した。オープニングからフィナーレまでの流れになる。委員がフィナーレの案を考えてくれたので説明していただく。

(委員) とりあえずたたき台、こんなのはどうかというのを作って参りましたのでご紹介をしたいと思います。

10時にフェスが始まって、15時10分に閉会式が始まり、その後半部、15時20分から15時30分という時間の中で、フィナーレでやるというプログラムになっていました。資料にあるテーマがみんなで歌って踊ってありがたいということでしたので、何がいかいろいろ考えたんですが、地域共生というテーマが後ろにあるということ、それと去年の紅白歌合戦でも披露されたんですけど、NHKのSDGsシリーズの「ひろがれ！いろとりどり」のテーマソング、YOASOBIのツバメという歌がありまして、それをみんなで合唱して踊って、あと、手歌ですね、歌詞もあるものですから、それぞれの団体に声かけて募集をしていくということ。

趣旨としては、この楽曲ツバメっていうのは共生社会の形成ということで、ツバメは陸の問題、海の問題など、広い地域を移動するツバメの姿に、人と地球環境の共生というテーマを考えるきっかけになるということと、このつばめが児童館に戻ってくるんですが、そこでは糞の被害があって巣を壊されちゃったっていうようなことがあったりして、そういう立場の違いで、どうしても気がつかないうちに傷つけてしまうことがあるだろうな、どうしたらいいだろうなって、今のウクライナの戦争の問題とか、どうして人は人を傷つけるだろうかというようなことを子供たちがいろいろ考えるようなテーマでもあって、非常に時期がいいのかなということなんです。

それで、ツバメの新城チームっていうのを結成して、9月いっぱいぐらいに募集して、ステージの構成を決定して、稽古を10月、11月で、それで参加される方は、いろんな団体の方があるのかなと思うんですが、個人でももちろんですが、YouTubeに、このQRコードが出てきますので、それで私はダンスをしたいわとか、私は手話をしたいわと、というような人が、みんな練習してきて、全体の練習は2回ほど、指導者の人にしていただいて、本番の前に1回練習してやるというような、それで予算的には指導者の方々もプロですから、そういった謝金の問題とか、あとその動画を撮影して、新城福祉フェスバージョンということで、YouTubeに出したら次回からのPRになっていいのかなと思う。

それで、一番の趣旨が、スタッフと一緒に練習をしたりということで、スタッフ同士の連帯感というものできて、今回初回の福祉フェスですので、それが2回3回とこれからずっと持続できる、元となるスタッフの連帯感を醸成するというようなことにも役に立つんじゃないかなということなんです。

2ページ以降は、参考資料です。歌詞が全部載ってまして、どういう思いがあるかということと、最終ページには、やってるNHKのチラシですね、一番下に親ツバメと子ツバメとの手話といった動画もあって、その中で自分のやりたいことをやってもらえばいいかな。中にはさいたま新都心バージョンとかいって各都市ごとに踊って、地域のまちづくりを盛り上げるというようなことをやってますので、新城

も福祉に包まれたよい街をPRするためにも、その動画を使っていけるんじゃないかなという、そういう案です。スタッフの皆さんもぜひ参加していただいて、ツバメ新城チームっていうのを新しく作って、みんなで最後、楽しんで終わりにできればという、そういう案です。

(2) プログラムについて

(事務局) 資料のとおり、4つの協議会と有教館高校に対して、今回のフェスについての趣旨説明を行いました。改めて福祉条例の説明、推進会議の体制、それからフェス当日における協力をお願いをしまして、いずれの団体も協力していただけるというお返事をいただきました。また、有教館高校においては、当日の午前中なら協力可ということで、受付や司会などOKということでした。

委員の皆様には、広くこのフェスを周知していただきまして、当日のご協力をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

また、前回、委員のみなさまにたくさんご意見をいただきました。その意見に対して部内で検討しましてその対応をまとめてあります。事務局的には、このように考えていますが、またご意見があればお願いします。

補足ですが、大会議室を健康課の健康まつりでおそらく使っていただけたと思います。

それから、プログラムとチラシも作ってみました。前回の推進会議の意見に対して今回やりましょう、来年に持ち越しましょう、というのを精査させていただきまして、今回そのプログラムのようにやっていきたいというのが、事務局案でございます。まずはオープニングです。有教館高校の高校生に司会をお願いできるということで、先生から了解いただきましたので、決まりましたら再度お願いに参ります。

挨拶等をやって、できれば始め健康づくりリーダーの方達に盛り上げてもらいたいと考えてます。オープニングに関してはうちの職員等を貼り付けて、舞台設営や舞台展開等、応援をしていきたいと思えます。

それから表彰ですが、また場合によってはこの時間体等が変わるかもわからないんですが、そこら辺の応援もして参ります。

魅力発信・体験コーナーですが、この魅力発信が中心になって展示室等を展開していただきたいというふうに思っています。ここには、介護サービスネットの方たちにお手伝いいただきたいなと思ってます。それから、相談所も開き、包括の職員をお願いしたいと思っています。福祉機器を展示したいと思ってます。場所は大ホールの1階、ホワイエのあたりに置いて、そこで説明をやってもらう、ここは福祉用具の事業者さんにお任せをしてやっていただきたいなと思えます。

あと、303と304の会議室ですが、ここで保育士さんたちが、子供たちの読み聞かせとか制作などのキッズコーナーなどを設けて、そこで保育士の職業相談も含めてやってみたいということでしたので、こども未来課の職員にお任せをして、キッズコーナー、子供の応援コーナーとしてやっていきたいと思えます。ラウンジですが高齢者の疑似体験ができたらいいかかなと思ってます。社協にお願いできないかなと思っています。

同じ場所で福祉事業所の即売所をお願いしていきたい。ここは、自立支援協議会の方で机を設置して、物を並べていただくぐらいだと思いますが、やっていただきたいと思えます。

あとキッチンカーですが、レインボーはうすさんに1台出していただきたいと思えます。

それから講演会では國信先生が13時から15時まで、ここも自立支援協議会にお願いをして、設営等

もしていただければと思います。それから最後がエンディングという流れでプログラムをこんな形で応援体制も含めて作ってみました。

これを元にカラー刷りのチラシも作ってみました。そろそろ決めて動き出さないと、いろんな宣伝等もして行きたいですから、ご意見等ございましたらいただいて、修正してプログラム自体を決めていくような形でお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

(委員) オープニング、市長が挨拶してくれたら、もうそれでいいんじゃないか。

(事務局) 座長の挨拶は最後をお願いします。

(委員) 手話通訳は挨拶につけるのか。

(事務局) 挨拶です。表彰で人物紹介することも含めて手話さんをお願いしようかなと思っている。

(委員) 要約筆記はいいですか。

(事務局) 1回打診してみます。

(委員) 疑似体験と即売とぶつかっちゃうということはないか。

(事務局) 即売所は広い所でやってもらって、疑似体験はあんまり来ないと思っていて、小ホールの方で思っている。なくていいかなとも思っている。

(委員) 高齢者疑似体験って支度に時間がかかる。車椅子体験だけでもいいのかなと思う。

(事務局) キッチンカー、お願いできますか。

(委員) 担当者と厨房に話してみる。何食限定というのはあるか。

(事務局) 先日、子供食堂をやることになった時に、40食限定で確か広告があったと思う。マックスはあるのか。

(委員) 100から150ぐらいは。途中で追加する。厨房でまわしながらやって、キッチンカーの中は盛り付けだけ。キッチンカーの中で調理をしようとする、200リッターの水が必要。

(委員) 食べるものはこれしかないのか、みんな手弁当で来るのか。

(委員) 一般のキッチンカーを入れたらどうか。手弁当で来るかなと思う。

(委員) 講演会の時間、展示など裏番組をやっているが、講演会は必ず聞きに来る人をある程度確保する必要がある。そのために協力をしてくれるといった団体が、どこまで協力体制をとってくれるか。

(事務局) 事業所に呼びかけて参加してもらおう。展示時間について、例えば、11時から13時の2時間だけでいいのか。

(委員) こういう福祉フェスだと、タレント性がある人を講演に呼べば人が来る。しかし、そういう選択をしなかった。講演会に全部集中させるのであれば、そういうタイムスケジュールになると思うが、それでいいのか。同時並行で何かがあっても講師の人に失礼にならない気がする。

(座長) 中には展示の方を見たいと思っておられる方もいるので、これでいいと思う。逆に福祉関係者しか来ないとか関係者しか来ないフェスをやってしまうことの方が怖いかなと思う。いろんな方に足を運んでもらえるようなものにしたい。大ホールは当日、どんな設定にするかっていうのは考える必要があ

る。

(委員) うちの職員をオープニングから来させて、この 11 時から 13 時まで過ごせるかなと思う。高齢者体験するわけでもなければ、展示物見たとしても 2 時間はかからないだろう。業界入所たちが、時間を潰せるアイデアがあるのか。

(委員) パネルディスカッションのときに、途中から入ってくるのは気にならないものなら、体験コーナーを 14 時半までにして、大ホールに集まってきてもらってエンディングを迎えるっていうようにやった方がいいのではないかな。

(委員) 物販の人たちは離れれない。

(委員) 國信先生の講演を聞きに来る人は 1 時を目安に来るだろう。

(委員) そうすると、オープニングって人が来てくれるのかなと思う。

(委員) 表彰の途中、11 時からだから設営の方に行ってしまうことも考えられる。

(委員) 講演の後に表彰式をやってみてはどうか。講演会の時が一番人が会場にいる。しかも地域共生社会の話をした後に、各事業所がどんな実践をして表彰されたのか、流れ的に絵になる気がする。

(委員) 市長は午後、大丈夫か。

(事務局) 大丈夫。

(事務局) 人がいない中で表彰を受けるより、大勢いるところで表彰受ける方がいいんじゃないかということで、講演会の後ろに持って行ってはというような話は出ました。

(委員) オープニングをセレモニーっぽいイメージで考えたかもしれないけれども、考え直してもいいかもしれない。

(委員) 午前中の尺がもたないようなら、短くしたらどうか。スタートを 11 時からとするとか。

(委員) 國信先生のところは、2 時間欲しいんですね。

(委員) まだ議論していない。1 部、2 部というのも特に決まってないし、2 時間という枠も話をしていない。通常、基調講演だと 90 分が普通。

(委員) 誰もいないところで表彰されるのもかわいそうだし、講演の後に表彰なら流れ的に綺麗なのかなと思う。

(委員) 表彰も 40 分使うか使わないのかは企画の仕方なので、どうにでもなるのかなと思う。

(委員) フィナーレの歌って踊って「ありがとう」は観客も踊るのか。

(事務局) 踊ります。

(座長) 午後に講演を持っていく、表彰式も持っていくという格好。90 分で表彰と合わせてやるっていうのはできると思う。フィナーレの時間を決めておいて、その時間までに自分たちのものを片付けて、お集まりください、でもいいのかなと思う。

(事務局) 國信先生の講演は 90 分でいいか。

(座長) 講演だけお願いをして、表彰式もあわせて、ひとかたまりできるか。講演は午後じゃなくて午前を持って行く格好もある。

(委員) ボランティア集会は大体午前です。

(事務局) ボランティア集会の時、ブースの準備はいつやっているか。

(委員) 前日にやっている。

(事務局) 午後に組み直してみる。午前はちょっと難しい。

(委員) それならそのほうがいい。食べるものの問題もなくなる。

(委員) 牛すじカレーと物販は11時からで、全体は12時くらいから始める感じ。

(委員) 展示とかは10時からやっている感じ。オープニングはやってないけど。

(座長) 文化会館は8時30分からしか入れないので、10時からスタートは難しい。展示は11時から。

(委員) 基調講演の前に市長が挨拶する。でも有教館高校の子たちに出番がなくなってしまう。

(委員) 大会議室のところで少しオープニングしたらどうか。

(座長) 何かのときに展示室の前の、階段の所でやったことがある。

(事務局) 高校生は、午前も午後もという大変なので、午前だけならいいですよってことだったので、多分午後だけなら承諾してくれると思う。

(座長) 最初の、さあ始めましょうというのは、市長じゃなくてもいい。大ホールの時には市長、その進行は有教館。有教館の子たちは、お昼からにしてもらって、午後にみんなが客席に座っているときに、表彰式を行う。講演会のパネルディスカッションはなくしてしまっただけで、少しの時間をもらえば表彰式ができると思う。講演は1時間か。1時間30分が最大か。

(委員) 1時間をお願いすれば1時間でやってくれるだろう。

(委員) キッチンカーなどはなしということで。

(事務局) 展示室の開始は11時からで。

(委員) 3時半に終わるようになってるが、それから片付けすると、またそれだけの時間がかかるかもしれない。3時までには片付けが終わらないと5時には帰れない。

(委員) 講演聞いたら片付けに行くとか、頑張っただけで表彰まで、エンディングまで見ていたら間に合わなくなる。最低でも講演を聞いてもらえればいい。

(座長) 誰か聞けない人が出たり、誰か居られない人が出るというのは、しょうがないかなと思う。例えば講演会だけみたいのがあれば、それだけで完結できる。

どういう分担をして、どのように人が流れるかを考えないといけない。

(事務局) オープニングの関係、午後の変更させてもらって、また皆さんにメールで発信させていただいて確認していただき、何回かやりとりをさせていただいて形にしていきたい。

(事務局) 魅力発信チームです。写真を公募していることをこのチラシの中でPRしていきたい。

(座長) このチラシは、固まったものをPRするためのチラシと解釈している。これはあくまでこういう行事をいたしますという宣伝用のチラシなので、これで広報するとか呼びかけるとかという性質のものではない。これは12月18日の本番をお知らせしていくもの。

(委員) 今日の話でいうなら時間が11時に変わるだけ。

(委員) ある程度協力してくれる人数を把握するために、この事業所からは何人ぐらい、誰が出るとか、そういうものは必要ないですか。

(座長) そういったものが必要なら、チラシの上に正式な依頼文を乗せる必要がある。チラシはどこにでも出せる共通のもの。

(事務局) 裏面にタイムスケジュールと会場案内を入れたいと思う。

(委員) 一般市民への周知ということで、どこへ配られるのか。

(事務局) 今のところ未定。

(座長) 広報に枠をもらって照会してしまうと、チラシの現物を入れることはできないか。できないのであれば広報とは別の違った形でチラシを出していく必要がある。

(委員) 写真展の公募はどうするか。

(事務局) ホームページに挙げていくことを考えている。このチラシの中に写真を公募していることを載せれば目に触れる回数が増えると思ったので、先ほど提案をさせていただいた。

(座長) これは当日のご案内をするためのチラシと考えた方がいい。公募についてどんな条件でどんなふうにということを書いたものをつけて、具体的にどこへどういうご案内を出していくっていうのを考えていかないといけない。

(委員) これにタイムスケジュールと配置図があればいい。

(事務局) 公募については実行委員会の中で詰めていきたい。広く見てもらえる方法を考えていきたい。

(委員) 「ふくし」は漢字の方がいい。

(座長) 何とかコーナーとなっているが、「知る」「やってみる」「買う」などの言葉で表した方がいい。逆にこのキラリしんしろは、真ん中近くの方がいいと思う。

(委員) 表彰の時間が書いてある方がいい。

(座長) 主催は書いてあるけど、問い合わせ先がない。お誘い合わせの上と書いてあるが、どなたでもおいでくださいの方が優しい感じがする。

(委員) 福祉・介護等の仕事に触れていただきの部分、いただきという表現ではない方がいいのではないか。

(委員) 表彰は斜めではなく、横書きで。

(座長) 時間の流れのように、講演会の下に表彰を書くといい。

(委員) 「わたしたちにとっての福祉とは」の、とはは取る。演題も同様。

(委員) フィナーレのことも表面に載せた方がいい。「ツバメを踊ろう」といった感じで。

(委員) 私は手の写真が苦手なので、ツバメの写真の方がいい。

以上